



# 知能教室だより

〈 第 7 号 〉  
平成 29 年 10 月 16 日  
山形 知能教室

またたく間に過ぎていく日々、気がつけばもう 10 月も半ばです。本格的な秋の深まりとともにこれから朝夕の寒暖の差が大きく、体調を崩しやすくなる季節です。体調管理に気をつけながら、読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、など色々な実りの秋を楽しみましょう。

## 合格カードの交換が始まりました！！



10 月 2 日より、まちに待った小学 1・2 年生のプリント学習の合格カードと、ご褒美の交換がはじまりました。「私は 50 枚！」「僕は 40 枚！」「100 枚ためて一気に交換するんだ！」など、さまざまな声を耳にします。

目標をもって、最後まできっちり取り組むことは学習を定着させるうえで、大切なことです。ご褒美交換は、自信と達成感を得られ、このことが成功体験となって学習意欲に火がついています。自分でやり遂げることの喜びをさらなる意欲につなげていきたいです。

ご家庭でも、最後まで頑張ることを伝えて下さい。そして、最後まで頑張ったことを認めて、一緒に喜んであげて下さいね。



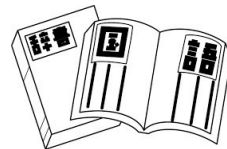
★交換枚数★

- 50 枚…トロフィー（1年生）、カップ（2年生）
- 40 枚…金メダル
- 30 枚…銀メダル
- 20 枚…銅メダル又はおたのしみ賞



※おたのしみ賞以外には賞状がつきます

## 小学 2 年生のみなさんへ



2 年生のみなさんに漢字辞典を用意しています。合格カードの交換の時に一緒にごほうびとして渡します。本来、3 年生の修了の時に修了記念として贈呈していたものですが、ここ数年、プリント学習への意欲につなげてほしいと思い、又、漢字が徐々に増えていく 2 年生の時期に贈って、活用してもらえば漢字に関心を持ってくれることを信じて、この時期を選びました。家に直していないプリントやまだ途中のプリントをねむらせている人もいますので、どんどんプリントを出して合格カードと交換して、辞典ももらいましょう。

## 入室児募集中



山形知能教室では、入室児を募集しています。お知り合いの方で、知能教室に関心のありそうな方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介下さい。知能診断だけでも受け付けております。

先日、興味深い新聞記事を見つけましたので、紹介したいと思います。

### 中学生の読解力 低調

国立情報学研究所の新井紀子教授らが 22 日に公表した読解力テストの結果からは、言葉の順序を入れ替えたり、文の構成を変えたりするだけで、内容を読み取れなくなる中高生が多い実態が判明した。新井教授らは問題の 1 部も公表したが、グラフなどのデータを読み解く力にも課題が浮かんた。

新井教授は「多くの生徒が教科書を読めていない状況で中学校を卒業している。今後どのように教え方を変えるかが重要だ。読解力向上に有効な指導法を研究したい」と話している。

（調査は 2016 年 4 月～17 年 7 月、全国の小 6～社会人を対象に、独自の読解力テストを実施。公立・私立中高生 2 万 1000 人の結果を中心に分析した。）

平成 29 年 9 月 23 日付読売新聞より抜粋

国際的な学習到達度調査（PISA）では、読解力の低下が問題視されているのが日本の現状です。また、以下のようなことが課題として指摘されています。

- ・従来から見られた「自分の考えを説明すること」などに課題がある。（解答を課題文中から探そうとしているなどの誤答）
- ・複数の課題文の位置付け、構成や内容を理解しながら解答することができていない。そうしたことを踏まえて、文部科学省は次期学習指導要領では思考力や表現力を主体的に育むアクティブ・ラーニングという学習法を重視しています。

知能教室の授業の中でも読解力や語彙力などに結びついた内容はありますが、その中で文章を組み立てたり、読み取ったりすることが苦手になってきているように思われ私共も共感しています。例えば、この時期、2 年生の教材で『笑い話の完成』（NMT 概念の転換を集中思考する）という教材があります。5 文ほどの文をつなぎ、笑い話を完成させる課題です。この教材のねらいは、言葉の意味を柔軟に替えて、おもしろいオチをつけることです。オチのおもしろさにたどり着く前に、内容が通じるように文を並べることの難しさで行き詰まり、頭をかかえてしまう子が多いのです。

また、とんちで有名な一休さんのお話も知らない子ども達が多いことに驚かされています。

読解力低下の背景として、子ども達を取り巻く情報環境の変化が一因として挙げられそうです。読書量や新聞を読む機会が減っている一方、スマートフォンなどを活用したインターネットの利用時間は増えているという調査結果もでています。子ども達が日常的にふれる文章量が変化していることがうかがえます。スマートフォンなどで短文は読んでも、長文に接する機会が十分ではないのでしょうか。

秋は色々なことに集中して取り組むにはよい季節です。読書によって積極的に言葉に触れ、言葉のおもしろさや文章のおもしろさを感じ、表現力を豊富にしたいと思っています。昔話や一休さんのようなとんち話なども読んでみてはいかがでしょうか。

